

【第3号議案(報告事項)】

2026年度事業計画書

(2026年4月1日から2027年3月31日まで)

2025年度より新会長・副会長のもと新体制となり、各常設委員会は、委員長・副委員長・担当理事の3人の幹部体制とし、委員会間の連携をさらに強化することで、学会活動のさらなる活性化を図る。特に「生産技術関連」「若手研究者の育成」「財政健全化」を念頭におき、継続的な研究・技術開発の促進と将来の発展を目指し、会員満足度の高い事業を具現化していく。よって、新しい研究・技術開発などについては、会員に情報共有する体制づくりを強化する。総合計画委員会では各常設委員会の活動で生産技術や若手に向けた取り組みなどを協議し、活動に応じた収支状況を見定め財政健全化を図る。研究事業は、後継部会2テーマ、先行研究部会から研究部会に格上げとなる1テーマが加わり、研究部会として18テーマ(内生産技術系は7テーマ)で活動を進める。成果報告については、大会運営委員会と連携し、春秋大会によるテーマセッションの設定、企画委員会の連携によるシンポジウムの開催、編集委員会と連携し研究論文や生産技術関連テーマでは解説、技術報告を執筆し、部会のテーマ内容と活動方針に合わせた体制作りを進めていく。企画委員会では、「生産技術関連」をテーマとしたシンポジウムを計画し、また、ニーズの高い脱炭素化社会に対応するための研究や技術、さらに、表面処理、腐食・防食、接合技術などの要素技術を取り入れたテーマを開発していく。編集委員会は、春秋大会の講演・ポスター発表で論文にふさわしい内容には研究論文あるいは解説の執筆推薦を積極的にを行い研究論文の掲載増加を推進する。また、財政健全化を見据え、広告などの収入、出版関連の支出を管理するとともに、会誌の早期電子化に向け推進する。国際交流事業では、2026年度のALMA2026に向け、2023年に締結したMOUに基づき、従来通りの方式で開催することとし、Meetingおよび見学会の開催も検討する。一方で、今後の開催については各国との協議していくこととした。また、2年ごとに開催しているタイにある軽金属製造メーカの技術者を中心とした生産技術系の軽金属材料基礎技術講座タイセミナーについては2027年の開催に向け検討を進める。なお国際フォーラムやシンポジウムを企画することで、海外技術者・研究者と交流し、国際連携強化の継続を図る。

会員満足度の向上を図るとともに、維持会員および正会員の増加を推進し、2050年までに会員数2,000人の達成を目指す。併せて、若手研究者、女性研究者、支部会員及び生産技術者等の育成・支援を強化するため、各常設委員会とともに推進する。さらに、財政状況を的確に把握し、活動の取捨選択を行うことにより、持続的かつ発展的な学会運営を推進する。

[1]研究会、学術講演会等の開催(定款第4条第1項第1号)

1. 春秋大会の開催

1)第150回春期大会(完全対面開催(一部ハイブリッド開催))

会期	:2026年5月15-18日	
会場	:富山国際会議場	
実行委員長	:松田健二(富山大学)	
定時総会	:2026年5月15日	富山国際会議場・メインホール
研究発表講演	:2026年5月16-17日	富山国際会議場
表彰式	:2026年5月15日	富山国際会議場・メインホール
レセプション	:2026年5月15日	富山国際会議場 3階 ホワイエ
懇親会	:2026年5月16日	ANAクラウンプラザホテル富山「鳳」
機器・カタログ展示	:2026年5月16-17日	富山国際会議場
企業招待講演	:2026年5月16日	「北陸支部の軽金属企業紹介」 富山国際会議場 2階 201(第2会場)
男女共同参画セッション	:2026年5月16日	「軽金属キャリアのリアル ～地方・海外・大学の視点から学ぶ働き方～」 富山国際会議場・メインホール
市民フォーラム	:2026年5月15日	「水の輪廻 ～富山(とみやま)・富水(とみみず)・富心(とみこころ)2026」 富山国際会議場・メインホール

2)第151回秋期大会

会期	:2026年11月13-15日
会場	:水戸市民会館
実行委員長	:倉本 繁(茨城大学)
研究発表講演	:2026年11月14-15日
表彰式	:2026年11月13日
レセプション	:2026年11月13日
懇親会	:2026年11月14日
機器・カタログ展示	:2026年11月14-15日
企業招待講演	:2026年11月14日
男女共同参画セッション	:2026年11月14日
市民フォーラム	:2026年11月13日

2. シンポジウム、セミナー、見学会等の開催

参加者の利便性を考え、オンライン、ハイブリッド式により、以下を開催する。軽金属基礎技術講座、軽金属セミナーは、現地対面開催を進め、講師と参加者が技術の意見交換を直接行うことで、コミュニケーションの強化と技術の理解力増強を図る。

- ・第137回シンポジウム「チタンの基礎」(2026年9月予定)
- ・第138回シンポジウム「異種金属接合」(2026年10月予定)
- ・第139回シンポジウム「水素」(2027年12月予定)
- ・第140回シンポジウム「表面処理・腐食防食」(2027年2月予定)
- ・軽金属基礎技術講座「アルミニウムの製造技術」(2026年11月20日～21日)
- ・第32回軽金属セミナー「アルミニウム合金の組織—入門編(状態図と組織)」第16回(2026年12月予定)
- ・第33回軽金属セミナー「アルミニウム合金の組織—中級編(時効析出)」第15回(2027年2月予定)
- ・第34回軽金属セミナー「アルミニウム合金の組織—応用編(加工・熱処理による組織変化)」第13回(2027年3月予定)
- ・中堅企業向けセミナー、講習会(支部単位で実施)

[2]国内外における研究協力・連携の推進(定款第4条第1項第2号)

1. 国際交流

1)ALMA2026(Asian Light Metals Association)

ALMA2026 に向けたテーマ(環境、エネルギー)、参加国を検討し、日本、中国、韓国、台湾、オーストラリアから軽金属の学術研究・技術開発に関する動向や最近のトピックスを第151回秋期大会(水戸市民会館)にて開催する。次回以降の開催については、ALMA2023において締結したMOUをもとに、関連各国と協議する。

2)タイ技術講習会

2027年6月に開催すべく、関係者との協議中。2025年9月に開催した同講習会で実施した受講者アンケートを参考に、講義内容および講師の見直しを検討し、ニーズに対応すべく、圧延(箔)、押出、鍛造、鋳造の生産技術を中心に接合や表面処理等の要素技術について日本から8件、タイから2件の講義を計画する。

3)学会の国際化、国際連携、国際ワークショップ

国際ワークショップを11月、ミニワークショップ(Mg、Tiに関する研究・海外経験者による若手を対象)計画し、海外の研究者と取り組んでいる共同研究の成果などを広く紹介するとともに関連分野の研究者との意見交換により、軽金属に関連する国際連携活動を推進する。

4)ICAA20

2026年9月13日～17日にベルリンで開催するICAA20への参加を国際委員と連携し、会員の積極的参加を促す。

2. 産学官の連携

2025年参加会を見直し、軽金属関連の研究・生産技術の意見交換を行う場をとし開催、アンケートの結果を反映し、参与(ユーザーメカ)からの意見をもとに、「サーキュラーエコノミー」「リサイクル」をテーマに話題提供2件を参与の出席が最も多い2026年6月23日に実施する。開催後は同様にアンケートを行い、参与の要望に対応した話題提供テーマにより12月に開催予定である。参加会の目的に対応する形式を継続し、産学官の連携を強化し、軽金属の将来に向け、国やユーザーから期待される軽金属材料について意見交換する。

3. 他学協会との連携

日本学術会議、材料連合協議会幹事会、材料戦略委員会、日本工学会等と連携を保つとともに、日本工学会の理事を当学会より推薦し着任した。軽金属奨学会、日本金属学会、日本鋳造工学会、日本塑性加工学会、日本材料学会、日本鉄鋼協会、日本機械学会、日本アルミニウム協会、日本マグネシウム協会、日本チタン協会、日本チタン学会、軽金属溶接協会など、他学協会との講演発表、シンポジウムの共催、協賛などの協力を積極的に行う。

日本アルミニウム協会との連携強化を目的に意見交換を実施し、研究分野での生産技術関連のテーマ立案・実行、投稿分野での協会誌・学会誌の共通性の高い解説記事などの転載による会誌の充実化、講演分野では協会で推進する国プロなどの成果をテーマセッションやシンポジウムで公開などを提案。定期的な意見交換会を開催し、連携強化を図る。

なお、日本金属学会との講演大会の共同開催につき、大会運営委員会でメリット・デメリットを検討し、さらに第150回春期大会で会員にアンケートを実施し、その結果を取りまとめ、理事会、委員会、支部長会などで方向性を協議する。

また、男女共同参画学協会連絡会の夏の学校に積極的に参画し、軽金属学会紹介パネル、軽金属製品展示、軽金属を利用した実験などを行う。

軽金属溶接協会とは溶接・接合関連の若手研究者奨励のため、春秋講演大会での優秀ポスター発表賞表彰を継続する。さらに異材接合委員会と2025年度より新設する異種金属接合研究部会と意見交換により、双方の強みを生かした研究・技術開発により、接合技術およびメカニズムを明確化していく。2021年度に東洋アルミ軽金属みらい財団(旧軽金属奨学会)の協力を得て始めた共同刊行誌Mater. Trans.のインパクトファクター向上を目的とした投稿助成事業を継続し、内外の著名な研究者の解説論文投稿勧誘を推進する。

[3]学会誌、学術図書等の刊行(定款第4条第1項第3号)

1. 会誌「軽金属」の刊行

2026年度は第76巻4・12号、第77巻1・3号までの12冊を刊行する。第74巻4号からスタートした「マグネシウム合金の基礎と応用」の連載講座は連載中で、第77巻1月以降まで計画している。次期連載講座として「アルミニウムおよびアルミニウム合金の諸特性」は、タイトル、執筆者の選考が完了し、2027年1月より連載を開始する。また、毎年9号ではミニ特集として「アルミニウムによる脱炭素化社会に向けた取組み」を継続的に掲載する。さらに、2025年度から編集委員において大会発表で優れた内容について論文執筆を推薦し、執筆の承諾を得た数件を着実に進め論文掲載増加を図る。

2. 研究部会報告書の刊行

2025年度に終了した2部会「アルミニウム合金のひずみ速度感受性モデル化研究部会」、「7000系アルミニウム合金の時効硬化挙動研究部会」は2026年3月31日目標に成果報告書を刊行する。

3. 研究部会報告書、シンポジウム・セミナーテキスト、概要集の電子書籍刊行、研究部会報告書やテキストの無料閲覧

第135回秋期大会から開始した大会概要集の電子化を第150回春期大会、第151回秋期大会も継続する。また、ハイブリッド式で開催したシンポジウムやセミナーは、受講者アンケートの結果を参考に、適宜対面とハイブリッドの両面に対応する。ハイブリッド開催では音声状況を含め会場設備を改善し、会員満足度の向上を図り継続、さらなる向上を検討していく。会員特典として、2023年6月から開始した研究部会報告書やシンポジウム・セミナーテキストなどの刊行物の学会HP会員マイページでの無料閲覧サービスを継続する。

[4]研究及び調査の実施(定款第4条第1項第4号)

研究委員会を中心に、他の常設部会と連携しながら、軽金属学会の研究活動を推進する。主たる活動計画は以下のとおり。

1. 研究部会

2026年度の研究部会は、2025年度完了した研究部会「アルミニウム合金のひずみ速度感受性モデル化研究部会」と「7000系アルミニウム合金の時効硬化挙動研究部会」は後継部会として新設し、それぞれ「飲料缶用アルミニウム合金板材の引張特性のひずみ速度感受性および高速成形に関する研究部会」ならびに「7000系アルミニウム合金の時効析出と耐SCC性・微量元素効果に関する研究部会」として活動する。さらに先行研究部会として活動した「熱処理合金における析出現象の初期過程先行研究部会」は研究部会に格上げし、新たに「析出現象のゆらぎと核形成・成長研究部会」として2026年から3年間の活動で成果を上げていく予定である。以上の新設3研究部会と既設15研究部会(内 生産技術関連テーマは7研究部会)の18テーマで活動を進める。

	研究部会名	課 題
1 (512)	アルミニウム板圧延におけるセンシング技術研究部会	製造コスト削減・省エネ活動や少子高齢化、人手不足対策として、属人性排除、省人化、設備・機械の自動化が急務である。2025年度までにセンシング技術の現状とあるべき姿について議論済み。2026年度は各社の生産活動実務の共有と他業種との情報交換を主として活動し、将来のアルミニウム板圧延業界への提案をまとめる。
2 (513)	アルミニウム溶湯による耐火物の劣化因子研究部会	アルミニウム溶湯と接する耐火物の特性は、炉の性能・寿命のみならず、溶湯品質にも影響を及ぼす。そこで、アルミナー・シリカ系耐火物劣化因子に関する理解を深め、当該分野の開発に係る新たな知見を蓄積し、溶湯品質の向上および耐火物の開発に繋がる知見を得る。
3 (514)	中・高温域におけるアルミ合金の変形解析の高精度化に関する研究部会	2025年度は板材の単軸引張試験と単純せん断試験の比較、丸棒材の単純ねじり試験の予備検討を行った。2026年度はまとめとして、単純ねじり試験の本試験を行い、他2種類の試験法と比較し、それぞれの長所・短所を明確にする。それらをまとめて、報告書を作成する。また、可能であれば、得られた変形抵抗を押し出し等の加工法の解析に適用し、単純ねじり試験法の有効性を明らかにする。
4 (601)	押出加工中の溶着制御技術検討研究部会	アルミニウム合金押出成形材は、特に溶着部の欠陥を予測し制御することが必要である。6000系および7000系合金を対象に、組織の違いにより生じる表面欠陥、機械的特性のばらつきに対して押出加工条件や工具形状で改善が図れるか否かの議論に用いることができる数値シミュレーションの開発を進める。用いる組織予測式の開発には、各種アルミニウム合金の組織変化の特性を把握する必要があるため、組織分析の実験も並行して進める。
5 (602)	アルミニウム合金中の水素評価研究部会	アルミニウム合金の特性向上に焦点を絞り、材料物性に及ぼす水素の影響を実験やシミュレーションから、高精度でかつ多角的に評価・解明する。アルミニウムに過飽和に固溶する原子状水素とそれが分子状水素として析出したポアやプリスターなどのマイクロ欠陥の生成、成長および消滅、およびそれらがアルミニウムの材料物性に及ぼす影響を調査し、水素やマイクロ欠陥制御による特性改善の可能性を議論する。
6 (603)	マグネシウムのためのマテリアルDX研究部会	マグネシウム合金開発へのマテリアルDX(データ科学を活用した研究開発の効率化・高速化と、これらを通じた研究開発環境の魅力向上)の適用可能性を検討する。マグネシウムの機械的特性、成形性、耐食性等を対象として、データ科学を専門としない研究者が利活用可能なマテリアルDX技術を創出する。
7 (604)	キンク研究部会	長周期積層構造型マグネシウム合金がキンク変形によって強化することが見出された。これまでの研究により、ミルフィーユ構造(MFS構造)は、Mg合金のみならずAl合金やTi合金においても形成される可能性が高いことが判明し、軽金属材料に革新をもたらすことが期待される。そこで、軽金属材料を中心にLPSO構造やMFS構造をもつ新物質の創製を試みるとともに、その構造とキンクの制御により高強度の軽金属材料の創成を試みる。
8 (605)	アルミニウム(合金)の不純物制御研究部会	本研究部会では、アルミニウム合金のリサイクルにおける不純物の増加に伴う材料特性への影響および改善方法を検討している。展伸材においては、押出プロセスの活用による粗大晶出物の無害化を検討する。鋳物・ダイカストにおいてはADC12と熱交材スクラップをAC2Bに転用した場合の不純物増加による材料特性への影響を調査し、実用性を検討する。
9 (606)	アルミニウム屑の合金判別研究部会	アルミニウムにおけるスクラップ利用の課題は、アルミニウム以外の金属の混入やアルミニウム合金が混合されることによる不純物元素の増加であるため、スクラップ(固相状態)で適切な選別を行うことが必須である。高度選別技術(LIBS)はアルミニウムを品種別に選別可能であるが装置が高額であるため、本部会では画像判別を利用した簡便な合金判別に向け、各種アルミニウム合金の物性値、機械的性質、表面処理性、破断・破砕形状等の基礎データを整備し、選別技術発展の礎を築くことを目的に活動を実施する。
10 (607)	アルミニウム溶解工程におけるMg、Fe低減技術研究部会	将来的なCNへの対応として市中スクラップの更なる利用要求が高まっているなか、市中スクラップを溶解したアルミニウム溶湯中ではMgやFe成分値が増加し、これに伴い製品の品質低下が懸念される。本研究部会では、アルミニウム溶解工程におけるMgとFeを除去する技術とし

		て、酸化物によるMgの除去と、B化によるFeの除去についてフラックスの有効利用法も含め、基礎的な検討と生産現場へ実装可能なプロセスを検討する。
11 (701)	6000系アルミニウム合金の相変態挙動および材料物性に関する研究部会	二段時効の負の効果など工業的にも問題となる本系合金特有の諸現象についての共通理解を図り、その後、複数のクラスタを考える必要性や多くの種類の析出相が出現する理由、ナノクラスタの原子レベルでの形成挙動やB ⁺ 相との関係性などについて、先進的な解析装置と広範な計算科学を組み合わせることで明らかにすることを目的とする。
12 (702)	アルミニウム産業の脱炭素に関する工学的かつ経済的な計量計算研究部会	アルミニウム産業の脱炭素に関し、アルミニウムの軽量性、リサイクル性、伝導性、加工性等を訴求していくことが必要であり、その基礎となる数値の計量手法の確立を目指す。さらに、アルミウムの材料としてのCO ₂ 負荷量(循環利用の効果を含む)およびアルミニウムの使用側でのCO ₂ 削減量への貢献に関し、学術(工学および経済学)とともに実用の観点から、計量手法を確立する。また、計量の基礎となるアルミニウムのマテリアルフローの推計を精緻化する。この分野における国際的な議論をリードし、デファクト化を目指す。
13 (703)	異種金属接合材の組織形成と信頼性に関する研究部会	種々の先端接合技術を用いたアルミニウム/銅接合材やアルミニウム/銅接合材の接合界面組織の観察・分析および特性評価試験を行い、組織と特性の関係を検討する。得られた結果を基に、異種金属接合材における接合信頼性を確保するために必要な組織形態を明らかにする。
14 (704)	水素貯蔵・輸送用アルミニウム合金研究部会	アルミニウム合金は、軽量性、優れた低温での機械的特性、耐水素脆化特性を有することから、水素貯蔵・輸送用材料として、一部使用され、今後の利用拡大が期待されている。しかし、これまでに使用実績のある合金は少なく、また特に高圧力下においては、使用が認められている合金は限られている。そこで、各用途における水素環境下での使用に適したアルミニウム合金を選定し、それら使用するうえで必要な評価手法等について検討する。
15 (705)	サーマルマネージメント材料技術研究部会	生産技術系部会として、熱エネルギーに関わるさまざまな問題を取り扱うサーマルマネージメント材料と軽金属との関わりを明確化し、アルミニウムなどの軽金属材料の新用途開発への展開の足掛かりを明確化する。そのため、対象材料の選定、高熱伝導化、異方性の付与、機械的性質と熱伝導性の両立、界面熱伝達率の評価法の確立および学術的解析、金属材料や複合材料の組織制御、材料表面の形態などを重要課題とし活動する。
16 (801)	飲料缶用アルミニウム合金板材の引張特性のひずみ速度感受性および高速成形に関する研究部会 【後継部会】	飲料缶には3000系、5000系のアルミニウム合金硬質薄板材が用いられており、高速で成形されている。大量生産品でもあることから、高い成形性が求められる。また、飲料缶のリサイクルに伴い、不純物元素の割合が増加し、高速成形性に及ぼす不純物元素の影響について把握する必要がある。これまで、アルミニウム合金のひずみ速度感受性について報告されているが、O材(軟質材)や丸棒試験片の報告が多く、飲料缶用のアルミニウム合金硬質薄板材のひずみ速度感受性については明らかにされていない。そこで、変形特性(引張特性、塑性異方性)および変形組織(転位組織)の観点から、不純物元素、調質、供試材の厚さとひずみ速度の影響について調査する。
17 (802)	7000系アルミニウム合金の時効析出と耐SCC性・微量元素効果に関する研究部会 【後継部会】	7000系アルミニウム合金は、焼入れ時の速度を炉冷とした場合でも、2000系や6000系合金と異なり時効硬化を生じ、水冷材と同等の強度を得られることが最近の研究で明らかとなった。炉冷後も時効硬化する現象を中心とした時効硬化挙動のメカニズムを解明し、熱処理プロセスと材料組織ならびに耐SCC性との関係究明を目的とし活動ならびに意見交換を実施する。さらに、時効特性・耐SCC性や材料組織に及ぼすCrやZr等の微量添加元素の影響も解明する。
18 (803)	析出現象のゆらぎと核形成・成長 研究部会 【先行研究部会から部会化】	6000系、および7000系アルミニウム合金中の固溶状態からゆらぎを経て析出核の形成とその成長までの過程を定性的・定量的に解明することである。実験では、X線小角散乱とTEMの加熱その場観察によりゆらぎから始まる核形成過程を、DSCとXAFSにより(準)安定析出物の結合状態を計測する。解析では、非平衡統計力学に基づきゆらぎを経て核形成までを、物理化学(量子化学)に基づき核成長と(準)安定相状態までを解明する。

3. 日本アルミニウム協会とのロードマップ更新検討

2026年度は、研究委員(研究部会長含む)の専門分野から担当者を割り当て、2025年年度に見直しを行ったサイエンスロードマップにつき、社会情勢や環境変化などに合わせた見直しを継続的に実施し、学会活動の指針を明確化する。

[5]研究の奨励及び研究業績の表彰(定款第4条第1項第5号)

1. 研究・業績の表彰

1)第29回軽金属学会賞、2)第28回軽金属学会功労賞、3)第24回軽金属功績賞、4)2026年度軽金属論文賞、5) 2026年度軽金属論文新人賞、6)第61回小山田記念賞、7)第49回高橋記念賞、8)第44回軽金属奨励賞、9)第25回軽金属躍進賞、10)第18回軽金属女性未来賞、11)2026年度軽金属希望の星賞、12)2026年度軽金属学会企業奨励賞の選考および表彰を行う。表彰式は、1)-3)は第150回春期大会の2026年5月15日(金)に、4)-10)を第151回秋期大会の2026年11月13日(金)に行う。11)は2027年3月上旬に盾賞状を各大学へ送付し、卒業式・修了式など相応しい時期に表彰する。12)も2026年度末に各支部にて行う。また、春秋大会において、それぞれ優秀ポスター発表賞、優秀英語ポスター発表賞の表彰を行う。

[6]その他、本学会の目的を達成するために必要な事業(定款第4条第1項第6号)

1. 人材育成

大学オープンキャンパスへの軽金属製品供与・貸与による啓蒙活動の継続実施、軽金属科学実験室WEBサイトの実験事例拡充、担当教員・小中高生対象の工場見学会、大学生への維持会員企業採用情報を提供するWEBサイト(ライトメタルリク

ルート)継続運営、WEBサイトの研究室/研究機関紹介を実施する。さらに、対象を小中学生まで拡大し、WEBサイトから情報発信する。若手研究者育成を目的に、若手の会の見直しを行い、研究および技術開発における意見交換を活発に行う体制を整え、軽金属分野の研究・技術者の人材育成を進めていく。さらに、学生を中心とした軽金属産業の見学会を計画し、実製造を直接体験することで製造業の理解を深める活動を行う。日本アルミニウム協会の協力のもと、維持会員企業のインターンシップ募集情報のWEB掲載を継続実施する。また、各支部においては講演会・ポスター発表(高校生も含む)など、若手人材育成に関わる事業を実施する。また、企業の生産技術者の表彰制度検討を行う。

2. 男女共同参画委員会(若手の会、女性会員の会)

春秋大会時に、若手の会、女性会員の会を継続開催し、若手の会では大会初日の午前に見学会を開催する。春秋大会時に男女共同参画セッションを継続開催し、軽金属学会の男女共同参画に寄与する啓発、普及活動を実施する。第150回春秋大会では、第14回男女共同参画セッションにて「軽金属キャリアのリアル ～地方・海外・大学の視点から学ぶ働き方～」をテーマに材料系学科の出身者が活躍する企業の若手・中堅社員の視点で、地方勤務および海外勤務の実態を紹介。また、長年学生の就職支援に携わってきた教員の立場からも、企業・アカデミック、それぞれの進路について所感の共有などを計画した。また、第145回から懇親会への子ども同伴を開始し、第146回では会場内にノンアルコールエリアの設定を試行し、第147回より常設することで子育て中の若手研究者への親子同伴参加を進め、継続的にしていく。

一方、若手の会はこれまで男女共同参画委員会内の組織として活動してきたが、今後は独立した組織として活動することを目指す。その目的に基づき、奨励賞受賞者をはじめとする若手会員との意見交換を行い、今後の充実を図る。

3. 中堅企業R&D支援

中堅企業の技術開発を支援する「中堅企業R&D支援」を各支部中心に継続的に計画する。各支部にある公設試験研究機関の協力などにより、中堅企業との交流を深め、当会の認知度を高めるため、支部セミナー、企業見学会、WEB技術相談室、研修会、出前講座、HP質問コーナー、セミナーやシンポジウムを計画し、中堅企業に向け産学連携し、生産技術を取り入れた技術的な支援活動を進め、人材育成や課題解決のための活動を推進する。また、春秋講演大会においても、企業研究会・企業招待講演を実施し、二次加工、ユーザー企業と情報交換する。優れた製品開発、技術開発、高度な技術をもった中堅企業に対しては、支部から企業奨励賞表彰を推薦するなど、当会入会のメリットを最大限に生かした活動を推進する。

4. 支部活動

1)北海道支部

1.総会・役員会・運営委員会・支部会合

①支部理事会、支部評議員会 5月に富山で開催予定

②2027年度春季講演大会実行委員会 随時

2.講演会等

①支部講演大会 11月 北見工大

②講演会随時

③他学協会支部講演大会等への協賛

・日本鉄鋼協会・日本金属学会両北海道支部合同
サマーセッション(7月)と講演大会(12月)に協賛

3.人材育成

①若手育成支援事業

4.表彰関係

①軽金属希望の星賞一次選考、推薦

②学生優秀講演賞

5.維持会員加入勧誘活動

①訪問活動継続

2)東北支部

1.総会・役員会・運営委員会・支部会合

①支部役員会(2回、ハイブリッド・メール審議)

2.講演会等

①主催講演会(2回)

②共催・後援行事(3回)

3.人材育成

①若手育成支援事業

4.表彰関係

①高橋記念賞推薦

②軽金属希望の星賞一次選考、推薦

③軽金属学会賞推薦

④軽金属学会功労賞推薦

5.維持会員加入勧誘活動

3)関東支部

1.総会・役員会・運営委員会・支部会合

①支部総会(1回)

②支部運営委員会(4回)

2.講演会等

①第151回秋期大会(水戸市民会館)の実行援助

②工場見学会

3.人材育成

①若手研究者ポスター発表会

4.表彰関係

①高橋記念賞推薦

②軽金属学会功労賞推薦

③軽金属希望の星賞一次選考、推薦

5.維持会員加入勧誘活動

①セミナーや訪問活動を継続

4)北陸支部

- 1.総会・役員会・運営委員会・支部会合
- 2.講演会等
- 3.人材育成
- 4.表彰関係
- 5.維持会員加入勧誘活動

- ①定例幹事会(2回:4月、9月予定)
- ①第150回春期大会(富山)
- ②秋期講演会(11月 ウィング・ウィング高岡予定)
- ①幹事研修会
- ②若手育成支援事業 6月予定
- ①高橋記念賞推薦
- ②軽金属学会功労賞推薦
- ③軽金属希望の星賞一次選考、推薦

5)東海支部

- 1.総会・役員会・運営委員会・支部会合
- 2.講演会等
- 3.人材育成
- 4.表彰関係
- 5.維持会員加入勧誘活動

- ①総会
- ②理事会(3回、第1回は運営委員会と兼務)
- ①講演会(1回)
- ②研究部会(航空機材料部会)
- ③支部セミナー
- ①若手ポスター発表会、
- ②女性会員の会
- ③中・高生向け工場見学会
- ①高橋記念賞推薦
- ②軽金属希望の星賞一次選考、推薦
- ③軽金属企業奨励賞推薦
- ①TECH Biz2026:支部活動展示、講演会

6)関西支部

- 1.総会・役員会・運営委員会・支部会合
- 2.講演会等
- 3.人材育成
- 4.表彰関係
- 5.維持会員加入勧誘活動

- ①支部理事会(2回)
- ②支部幹事会(2回)
- ①支部シンポジウム
- ①関西軽金属サマースクール
- ②若手研究者・院生による研究発表会
- ③大学院生フィールドワーク助成プログラム
- ①高橋記念賞推薦
- ②軽金属学会功労賞推薦
- ③軽金属希望の星賞一次選考、推薦
- ④軽金属企業奨励賞推薦
- ①勧誘活動継続
- ②出前講座

7)中国四国支部

- 1.総会・役員会・運営委員会・支部会合
- 2.講演会等
- 3.人材育成
- 4.表彰関係
- 5.維持会員加入勧誘活動

- ①役員会(2回)
- ①第18回支部講演大会 令和8年10月3日(土)(岡山大学)(予定)
- ②研究会(3回)
- ①若手フォーラム
- ②高校生のポスター発表(岡山、徳島)
- ①高橋記念賞推薦
- ②軽金属功績賞推薦
- ③軽金属功績賞推薦
- ④軽金属希望の星賞一次選考、推薦
- ⑤支部賞(優秀講演賞、研究・開発奨励賞、技術賞、奨励賞)選考・授与
- ①中小企業支援事業、講演会を開催
- ②訪問活動継続

8)九州支部

- 1.総会・役員会・運営委員会・支部会合
- 2.講演会等
- 3.人材育成

- ①役員会(2回)
- ②例会(2回)
- ③材料系学協会九州支部支部長会議
- ①合同学術講演会共催 6月 熊本県民交流館パレア
- ①若手研究者支援セミナー

4.表彰関係

②中堅企業支援支部セミナー

①高橋記念賞推薦

②軽金属功労賞推薦

③軽金属希望の星賞一次選考、推薦

④合同学術講演会表彰学生による招待講演

5.維持会員加入勧誘活動

①中堅企業支援支部セミナー